市報 いしおか

7月号
第87号
毎月1回
30日発行

発行所 石岡市役所
石岡市大字石岡408番地
電話（代表）2135番

人口と世帯（7月1日現在）

世帯数		7,372世帯
人口	男	16,499人
	女	18,153人
	計	34,652人

昭和35年度一般会計決算の状況

◇才入

科目	予算現額	収入済額	予算に対する%	構成比%
市税	97,281	97,290	100.0	38.5
地方交付税	48,639	49,845	102.4	19.7
公財産及び事業収入	12,544	11,808	94.1	4.7
分担金及び負担金	1,140	1,241	108.9	0.5
使用料及び手数料	6,669	6,704	100.5	2.7
国庫支出金	41,495	35,745	86.1	14.2
県支出金	3,475	3,596	103.5	1.4
寄附金	1,555	1,397	89.8	0.6
繰入金	—	—	—	—
繰越金	13,866	13,867	100.0	5.5
雑収入	10,384	10,002	96.3	4.0
市債	25,000	20,800	83.2	8.2
合計	262,048	252,295	96.3	100.0

◇才出

議会費	5,687	5,645	99.3	2.3
役所費	44,783	42,468	94.8	17.2
消防費	14,759	14,662	99.3	6.0
土木費	30,682	29,585 (7,010)	96.4	12.0
教育費	70,892	70,047	98.8	28.4
社会及労働施設費	28,648	26,815	93.6	10.9
衛生費	22,535	20,714 (8,284)	91.9	8.4
経済産業費	15,216	12,469	81.9	5.1
調査費	1,205	1,061	88.0	0.4
統計選挙費	976	729	74.7	0.3
公債費	1,040	940	90.4	0.4
諸支出金	6,618	6,234	91.2	2.5
予備費	17,557	15,005	85.5	6.1
合計	1,450			
	262,048	246,374	94.0	100.0

（ ）内は予算繰越分で実支出済額は231,080千円となります。

市の財政白書

石岡市の財政運営
――歩みと現状――

石岡市の財政白書ともいうべき財政事情書は毎年二月一日と八月一日の二回一般に公表することを、市の条例で定めています。（財政とは市や町村などが、必要な経費を支払うことと、その財源を調達することを総評し、財政といっています。）

第一回は、七月一日から十二月末日までの期間、第二回は、一月一日から六月末日までの期間における、収入と支出の概況、公債や一時借入金の負債状況などを掲載し、市財政の動向を明らかにすることとなっています。

以下、事情書をひもとき、お知らせすることにします。

35年度の決算見込
＝繰越額五百九十二万円＝

昭和三十五年度の才出入状況調の結果からみた収入済総額は、二億五千二百二十九万五千円で、支出済総額二億四千六百三十七万四千円を差引くと、五百九十二万一千円の黒字を三十六年度会計へ繰越す成果が得られた。

この収入財源は市税三八・五%、地方交付税一九・七%国庫支出金一四・二%、市債八・二%が主なもので、未収入の特定財源収入八百十一万円、新市建設事業の前年度予算繰越残額から、前年度の繰越金一千三百八十六万円等を差引くと、単年度の黒字は二十八万二千円となる。

最終予算額二六二、〇四八千円に対し、収入済額は二五二、二九五千円で、予算に対し九六・三%の割合になる。

支出では、し尿処理施設事業の八、二八四千円、府中中学校増築第二期工事七、〇一〇千円の年度内完工の見透しが、最終予算に対し支出済額は九四・六%となっている。

決算規模の逐年拡大ということは、実施事業に年々それだけの延びがあることで、市の単独事業、国・県の補助事業等の投資的経費の推移をみても、決算総額に対し三十二年には一七・二%、三十三年は二〇・九%、三十四年は二二・五%と逐次上昇している。

才出にみる主な実施事業は、▽東小学校第一期及び第二期工事完工、▽高浜・関川地区有線放送電話施設完工、▽府中中学校第一期工事完工及び第二期工事着工、▽市道金丸―守横線舗装、駅前産業道路完成、▽市営住宅三十五戸建設、▽し尿消化槽建設工事着手（35・36年継続事業）等があげられ、さらに積極的な企業誘致に拍車をかけ、これに伴う固定資産税の増収、人口の増加、そして都市的な形態を具備した市民生活水準の向上が期待されるわけである。

36年度予算執行状況

昭和三十六年一般会計予算は二億六千四百九十余万円で「フロヨクワク」予算でスタートしたが、四月から六月までの三ケ月間の執行状況は、才入において地方交付税の概算交付二七、二〇〇千円と税収二六、七四三千円で大半が占められ、収入済額は六千五百余万円予算に対する収入割合は二四・五%である。才出については経常的経費で占められ、収入済額に対して約六〇%の支出率となっている。

市債

地方債（市債）が、近年地方交付税と並んで、財政計画において財源不足額に対する措置として考慮されるようになってきた。

地方団体は、特定事業の執行のために、地方債を起して財源とすることができるとされているように、いわばその事業に対してヒモ付の低利長期借入資金である。

地方債は、現在、政府資金（大蔵省資金運用部資金、郵政省簡易生命保険及び郵便年金積立金）と公募資金（地方団体が社債市場で公募するもの地元の金庫銀行を通じ公募するもの）とがある。

政府資金の場合は利率六分三厘で、一般事業の場合は二年乃至五年間据置いて、八年乃至二十五年間に償還することになっている。

当市の市債の現在高は五千四十七万八千円で、住民一人当り一、四五六円になる。これを目的別にわけてみると学校施設整備事業で二八、三五九千円、住宅建設事業で七、一五三千円、環境衛生施設整備事業で八、一七四千円、消防施設整備事業で四、四八二千円が主なもので、次のようである。

公用財産	
土地	3,127坪
建物	104坪
公共用財産	
土地	20,679坪
建物	1,816坪
教育財産	
土地	53,274坪
建物	7,272坪
基本財産	
預金	
（学校基本積立金）	1,731,653円
（市基本積立金）	259,519円
山林	67反
特別財産	
（学校改築積立金）	311,640円
（財政調整積立金）	193,812円
普通財産	
債券	650,000円
土地	1,054坪
建物	216坪
雑種地原野	21反

市の財産

私たちが、これがうちの財産だという場合、それは土地であったり、株券であったりするのだが、市有財産でもそれと同じで、広い意味でいうならば市が持っている財産や土地にしろ建物にしろ、小さな物品でもそれらはすべて市有の財産なのである。しかし現在の規定上では「市有財産条例」という市条例の規制対象のものだけを指している。

その範囲は土地、建物等の不動産、有価証券、社債、土地や建物に定着する主要機械器具等の不動産の一部、地上権地役権、賃借権等の無体財産権の一部に限られ、市が持っている才計現金、債権、物品などは含まないことになっている。これらは市を企業体へ

市税の住民負担

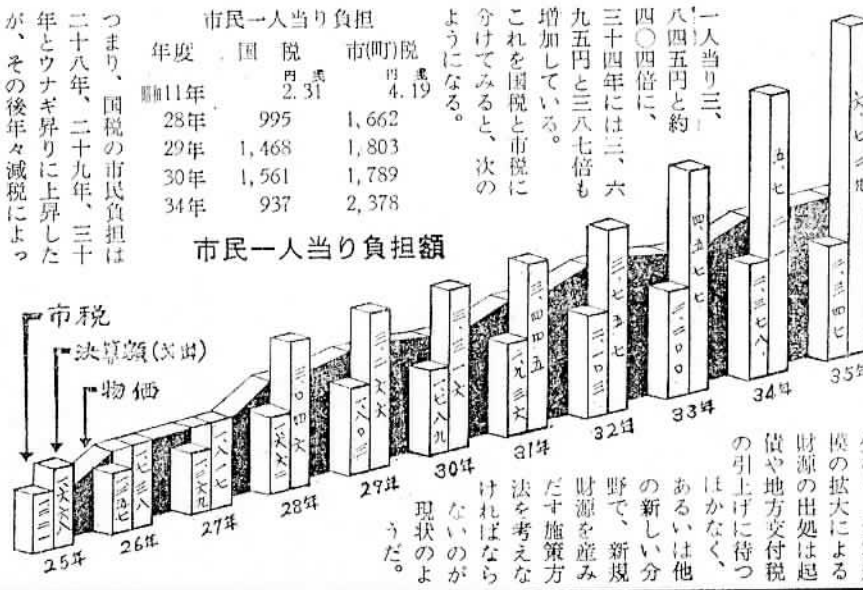
現在の租税負担が市民に対し、どの程度のものか、まず市民一人当りの平均租税負担額についてみると、昭和九年から十一年の平均が国税、県税、市税を合せて九円五十三銭であった。それが戦後昭和二十九年には一人当り三、八四五円と約四〇四倍に、三十四年には三、六九五円と三八七倍も増加している。

これを国税と市税に分けてみると、次のようになる。

市民一人当り負担

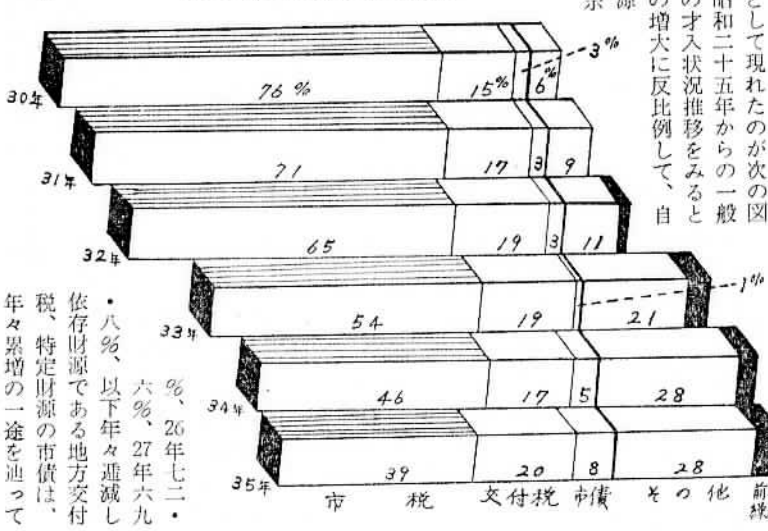
年度	国税	市（町）税
昭和11年	円 銭 2.31	円 銭 4.19
28年	995	1,662
29年	1,468	1,803
30年	1,561	1,789
34年	937	2,378

市民一人当り負担額



現在の租税負担が漸次軽くなりつつあるが、一面において地方税である市税への負担が重くなりつつある。ただ総体的にみた負担は幾分づつ軽くなっているといえるが国民所得や県民所得の比率にくらべると、まだまだ戦前の比ではない。このような結果から市町村税は全国的に著しく増徴の余地が少なく、予算規模の拡大による財源の出処は起債や地方交付税の引上げに待つほかなく、あるいは他の新しい分野で、新規財源を産みだす施策方法を考えなければならないのが現状のようだ。

一般会計才入決算の推移



る市税の調定額比率は、25年七六・八%、26年七二・六%、27年六九・八%、以下年々逓減し依存財源である地方交付税、特定財源の市債は、年々累増の一途を辿っていることがわかる。

甚だ困難であるようだ。その結果として現れたのが次の図で、昭和二十五年からの一般会計の才入状況推移をみると規模の増大に反比例して、自主財源の大宗であ

つまり、国税の市民負担は二十八年、二十九年、三十年とウナギ昇りに上昇したが、その後年々減税によって負担が漸次軽くなりつつある。

↙にたとえれば、行政というサービスを行なうため、この財産をもとにして仕事を行なっていることにもなり、逆にいえば、私たち市民一人一人の財産でもある。これらの財産は市の財産台帳に登載され管理の状況が常に明らかにされ特定のものについては、その取得、あるいは処分については、議会の決定が必要で、厳重に監督されている。

今回公表された財政事情書によると、土地＝七八〇、一三四坪、建物＝九四〇八坪、山林・その他＝八町八反、預貯金＝二百二十三万七千円、債券＝六十五万円（額面金額）などがあげられ、用途別に分けたのが上の表である。

市有財産は、さきにのべたように市の事務や事業の根本をなす重要なものだから効率的に活用すべきは勿論、市営住宅、し尿処理施設、小中学校校舎など年々増加している。

上水道建設計画に着手

まず霞ヶ浦の水質を調査

先般県の指導にもとづいて石岡、小川、美野里、玉里の四市町村で組合立の上水道建設事業を画策、四市町村長および議会議長によって水道建設促進協議会が結成され、目下その準備を着々進めており市発展に大きな役わりをもつ水道事業として脚光をあびている。

その計画は、県が委託をうけ、設計計画に着手、水源となる玉里村高崎地先の霞ヶ浦の水質調査を進めており、この調査とともに厚生省の許可申請等一切の手続をことしいっぱいで終え、来年度から工事に着手する予定です。

この水道は、霞ヶ浦から揚水して、科学的に浄水され、飲料水や、工業用水として、各家庭、官庁、学校、工場などに送水されることになります。各家庭の給水施設経費は目下検討中で、約六千円から七千円程度になる見込みです。

健康な市民生活は、完全な給水施設で〝きれいな水をゆたかに〟……それは誰しものねがいでありましょう。

市では、この計画を実行するために、市民各位の深いご理解と、ご協力を望んでいます。

災害復旧を陳情

市水害対策特別委

石岡市水害対策特別委員会（委員長青木義一郎氏）は、集中豪雨の水害による復旧事業促進のため、七月十二日土浦土木事務所など関係官庁に災害緊急復旧方について陳情を行なった。集中豪雨による市の被害状況次のとおり。▽水防＝恋瀬川・園部川・山王川決壊及び補強に要した人員消防八〇〇名、一般二、一一二名、空俵購入一〇、八一八俵、叺二〇〇枚その他。▽建設＝橋・道路延長六、三八五㍍、復旧工事費約一七五万円。▽産業＝農道及び用水路一二四ヶ所、二、四九四㍍、田畑作被害二〇二・八ヘクタール、うち皆無三一・三ヘクタール。▽衛生＝使用薬品六〇八〇円、流失打上塵芥処理一、六二〇円。

夏の防犯手帳

警察ではいま、夏に多い、暑いのでと戸をあけたままねむってしまったり、夏祭りなどでけんかしたり、傷を受けたり、お子さんたちが長い夏休みなので、悪い習慣がつく等その原因はいろいろありましょうが、次のことがらに十分注意してご協力をお願いします。

1 暑くても戸締り、鍵かけだけはお忘れなく。
2 婦女子の夜の一人歩きと余りに派手な服装はやめましょう。
3 ゆすり、たかり、おどし暴行、傷害などがおきたらすぐ警察へ。

暴行、傷害、性犯罪などの予防と少年の不良化防止のために、夏の防活運動をおこなっております。

夏休みの心得

いよいよお子さん方のたのしい夏休みになりましたが、休み中には次のようなことに心がけ、長い休みが明るく、たのしくすごせるよう正しい指導をしましょう。

学習
①「夏休みの友」「課題」等は、毎日時間を決めて、朝の涼しいうちに終らせる習慣をつける。②休み中に図書館の利用をはかる。③野外の動植物の研究や写生など、休み中の学習に便利なものを自分で計画する。

家庭
①仕事の分担を決め、毎日実行するようにして、仕事の喜びを覚えさせる。②家の中を明るくたのしくするようにする。またお客さまに対する礼儀作法に注意する。

衛生
①食前の手洗をする。食べすぎ、のみすぎ、ねびえなどしないよう健康に十分注意する。特に氷水など冷凍食品はあまりたべすぎないようにする。②運動と休養をほどよく行ない活動的な体をつくる。③伝染病予防対策に協力する。トラホーム、むしばなどの治療につとめる。④映画などよりつとめて戸外でのびのび遊ばせる。

水泳
①危険な場所や、きたない水で泳がないように水泳場を選んでやる。②行く時は必ず家の人のゆるしをうけ、場所と帰る時間を約束させて、一人では行かないこと。泳ぎの上手な年上の人たちと行くこと。③水に入る前に必ず準備運動をする（けいれんなどの予防のため）④心臓から遠い手足の方から順次水につけて行き、急に飛び込まない（心臓マヒ予防のため）⑤長時間の水泳には休息が大切、疲れきるまで泳がない。⑥泳いでいる最中は決してふざけない。おぼれそうなときは、直ちに大声を出す。⑦泳いではいけない者（脳貧血を起しやすい者、心臓病、結膜炎、脚気、皮膚病を患っている者、熱のある者

その他
①対面交通を守り道路の横断は左右を良くたしかめてから、また道路や線路での遊びはよしましょう。②さそわれても危険な遊び、不潔な遊び、夜遅くまで遊ぶことはさけましょう。③農作物を大切にする。魚とり、水泳の帰りなど特に気をつける。④人家のこんだ所での花火遊びは危険なので注意する。⑤公共物を大切に取扱い落書きなどは進んで消す。

八月の行事予定

（市内各種団体）

1日 9時公民館　船農講演会
2日 1時関川公民館　講演会
講師　高浜小　平賀六郎先生
3日 1時公民館　子供会映画会
6日 1時公民館　石岡婦人会定例会
6日 9時二高　県民体育大会＝陸上の部
6日 9時柔剣道場　県民体育大会＝剣道の部
6日 9時高浜小学校　高浜地区社会教育研究集会
6・7・8日 市内　七夕まつり
7・8・9日 公民館　第五回石岡納税組合員慰安浪曲大会（寿々木米若一門）
8月中旬　公民館大掃除、民謡練習会（市公民館）、クラブリーダー講習会（千代田研修所）、大砂・国分地区早生梨講習会。土壌せん虫（正上内）、子供会幹部研修会（高浜研修所）
10日 9時柔剣道場　青少年柔剣道大会（石岡警察署管内）15才～20才まで
13日 9時一高　県民体育大会
石岡市大会＝卓球の部
13日 9時石岡小　珠算中間検定（四・五・六級）
14日 1時保健所　妊産婦検診
16日 10時保健所　母親学級
15日 18時石岡小　デラックス賞抽せん、納涼民謡踊り大会（講師キング専属）
15日 9時柔剣道場　県民体育大会石岡市大会＝柔道の部
18日 1時保健所　離乳食実演指導
20日 9時・1時・6時公民館　納税組合員慰安浪曲大会（寿々木米若一門）
20日 9時二高　県民体育大会
石岡市大会＝バレーボール部
20日 10時高浜公民館　石岡地方青少年剣道大会
22日 石岡市　PTAスクール親子代表パネル及び講話（県　栃木先生）
24日 10時府中中　PTA問題研究協議会
24日 20時高浜公民館　レクリエーション大会

図書館だより

▽新刊図書案内△

やって来た連中、破戒裁判、絹の随筆、女性自身、愛情の系譜、ブルーガイドブックス15、どうしたら幸福になれるか㊤㊦、ユーモア、緑の詩歌集、農業はどこへいく、農業経営の理解と実践、一生の読書計画、何でも見てやろうイニシャルと紋章、哲学事典、日本文学辞典、やさしい学校工作、青汁の効用、算数が好きになる導き方、日本の農業経営、証券市場読本、経済成長と技術革新、販売価格の実践理論、青年の樹㈠、まあちゃんこんにちは、これだけは常識である、末っ子物語、草のちから、青年心理学、経済史入門、何が農業基本問題か、若い農民、東京の歴史、人生作法、黄金の針

▽七・八月の茨城県共同巡回文庫が多数入ってますご利用下さい。

職業安定所から

最近とくに経済界がよくなり、事業所では、人が足りなくて困っています。労働省では職業紹介の仕事を他の府県に広めたり、職業訓練所を強化したり、失業保険制度の範囲を拡大したり、雇用促進事業団を設けたりして、皆さんが早く就職できるよう努力しております。

就職したい方、職業について相談したい方は、石岡公共職業安定所にご相談ください

人事興信録

六月
出生　四一名
死亡　十八名

若松町　羽生伝　長男進
〃　田崎敏夫　長男克幸
〃　大手広　長男浩一
若丸　青木誠治　三男義貴
〃　亀下昌一　長女美知子
国分　赤津一朗　長男茂美
〃　今泉源一　三男光司
〃　小林実　長男浩樹
〃　大川政吉　二男義弘
県町　浜佐太郎　二女奈緒子
〃　和田利秋　長女みゆき
〃　柏木謙次　二女康子
山王台　宮本尚之　二男英明
守横　豊崎英雄　二男美徳
〃　柏崎実　長女和子
〃　寺門孝男　二男亮二
富田　久保忠雄　二女ゆか
貝地　前島光　長男光男
兵崎　小松崎義男　二男謙二
自由ケ丘　川又実　長女玲子
〃　潮田康　長女直子
行里川　高栖義光　長男悦子
井石沢　岡野国男　長男新一
谷向　塚野一郎　長男武史

宮部　樫村誠一　長男正一
関谷　長谷川孚　二女清美
〃　矢口貞雄　長男一美
高浜　大吉繁雄　三女由利子
〃　江橋孝蔵　長男暁
北根本　井坂良一　長女美津枝
東大橋　小吹克　二男英司
〃　井坂清雄　長女まり
小井戸　長谷川宗一郎　長女弘美
三村　岩田定信　長男美宏
〃　藤崎藤男　長女きみ子
石川　柴崎垣　長男禎一
〃　浅野貝次　長男和規
井関　坂本幹　二女弘子

▽死亡
宮部　広原喜市　五七
宮下　長谷川こう　八二
中町　野村ふく　七七
土田　止五郎　五四
若松　宇野昌太郎　六六
〃　小貫やす　五六
香丸　小松崎義雄　五九
国分　赤津喜代三　五五
大小路　金丸身内竹次郎　八三
〃　古矢幸雄　三九
守横　太田くに　七三
貝地　高崎あさ　六九
高浜　高柳さく　五四
〃　山口さわ　七三
〃　大土竹寿　六〇
中津川　高野よう　五四
〃　直井金蔵　七〇
三村　小松崎ゆう　七四

これが国民年金の印紙です。

7月は、国民年金保険料（4.5.6月分）の納期になっております。印紙は市の出納室にうっておりますからお買い求めの上、年金手帳にはって検認（消印）を受けて下さい。